

活動報告書

報告者氏名：岡本 崇

所属： 大分県立大分支援学校

記録日：平成27年 2月14日

【対象児の情報】

○学年 中学部1年生

○障害と困難の内容

- ・知的障がい
- ・小学校2年生程度の漢字の読み・書きが可能。文字を書くこと、読むこと自体は好んでいるが、自分の気持ちを書き表すことや、必要事項を書き取ることなどには苦手意識を持っている。
- ・「金銭」や「時刻・時間」の理解に関しては、教室内での金額揃えや時計読みなどの学習ではできていることでも、実際の場面で活用することは難しい
- ・家庭でも YouTube などの動画を見ることに興味を持っているものの、機器の扱い自体には慣れていない
- ・家庭での生活のリズムが確立できておらず、体調不良を理由に頻繁に欠席する。
- ・乳製品の食物アレルギーがあるが、アレルゲン物質を意識することは少ない。

【活動目的】

(ア) その活動の当初の目的やねらい

生活の実態に沿って適切に iPhone を活用することで、社会生活に関わるさまざまなスキルを習得し、自立・自律的な生活を送る

(イ) 実施期間 平成26年4月14日～平成27年3月末

(ウ) 実施者 岡本 崇

(エ) 実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

(ア) 対象児の事前の状況

- ・母親と2人暮らし。母親が長時間の通院を頻繁に行っているため、家庭で1人で過ごすことが多い。母親の体調が悪いときは自宅から出ることができなくなる。
- ・通話のみ可能な携帯電話を所持しているが、発着信ともに行ったことはない。
- ・近所にコンビニエンスストアなどがあり、一人での買い物ができるようになることを保護者は望んでいる。
- ・公共の交通機関を使った自力移動が確立できておらず、独力での移動は自宅の周辺100m圏内である。
- ・前籍校の小学校では不登校で、ほとんど登校をしておらず、家庭内で過ごしていた。今年度になっても、スクールバスの時間に間に合わないことを主要因として、ささいな原因（朝起きられない、気分がすぐれないなど）で欠席をすることが多い。

(イ) 活動の具体的内容

家庭の状況から、緊急性が高く、早急に必要最低限の社会的生活を送れるようにならなければならないため、「買い物」と「自力移動」、「自律的な生活の確立」の中で、必要性から絞りこんで実践を行っている。

① 食料品を中心に、日用品など、生活に直結した商品を自分で選んで買うことができるようになる

【事前学習】

- ・店舗ごとの特徴や商品について知り、情報をまとめる→「カメラ」での撮影、「iPhoto」での整理
- ・教師と一緒にポイントをまとめた動画マニュアルを作る→「iMovie」での編集、「YouTube」でのアップ
- ・店内の棚のすべての段の商品を見て、買うべき商品を探す→「Photosynth」による疑似店内の探索
(店内の状況を3D撮影することで、棚の位置関係などを再現する)

【実際の買い物場面】

- ・食料品にアレルギー物質が含まれていないかを確認する→「アレルギーチェッカー」で検索
- ・買い物に関する一連の活動を動画で見直しながら行動する→「MyPhoto」での動画整理・検索
- ・具体的な行動そのものを動画で確かめる→「YouTube」で、ストックされた動画マニュアルを閲覧

(「大分支援学校チャンネル」内に、対象児専用の動画セクションを作り、占有できるようにする。必要な動画の URL は QR コード化し、パスケースに入れて携帯することで、いつでも閲覧できるようにした)



QR コードを入れたパスケース

② 自分で停留所まで行き、バスに乗り、不足時には自分でチャージをするまでして、完全な自力通学をする 【事前学習】

- ・バスでの行程や周辺の景色などをあらかじめ見て確認する→「GoogleMAP」ストリートビューで検索
- ・バスの乗り方、バスカードでの運賃の支払い方などを学ぶ。また、バスカードのチャージの仕方、タイミングなどを学ぶ
→「カメラ」で撮影、「MyPhoto」での整理
「ふきだしツクール」で写真メモ化
- ・教師と一緒にポイントをまとめた動画マニュアルを作る→「iMovie」での編集、「YouTube」でのアップ

③ 生活時間の管理や、緊急時など必要な際の連絡の方法を確立する

- ・緊急時などの連絡手段を確保し、適切な連絡方法を身につける。→「通話」及び「メール」
- ・「起床・就寝」「ゲーム等」「宿題」などの、すべきことや時間配分を決め、規則正しい生活リズムを確立する。そうすることで、登校回数を増加させる。→「TimeStamp+」で毎日生活のログをつける
- ・一日の生活を振り返る習慣を身につける→「こびと日記」の自動日記を修正する



アレルギーチェッカー



MyPhoto



iMovie



YouTube



GoogleMap



ふきだしツクール



TimeStamp+



こびと日記

動画による教材について

対象生徒は、社会生活に関わる行動についての経験や知識が非常に乏しかった。そこで、それらについての必要事項を動画化していった。それを見ることで、生活の中で確かめられるように考えたためである。

動画は、本人が撮影し、自分が見たままの視点の映像である「主観的視点」のものと、教師が撮影し、本人が行動している様子を客観的に見る映像である「客観的視点」のものがあるが、それぞれの用途を明確に分けた。そして、それらの管理方法や使用方法についても明確に区別した。これは、将来的なスマートフォンの購入時の利用の仕方や、社会参加時の利用の仕方を想定したためである。そうすることで、将来にわたっても、場面ごとの必要に応じて、2つの種類の動画を使い分けながら生活をしていけると考えた。

「主観的視点」…本人が考えて撮影する。いわば本人にとって必要な「動画メモ」としての役割を果たしている。「MyPhoto」を使って本人の iPhone の中に保存しておき、紙のメモ帳と同様に、いつでも気軽に見て確認できるようにした。

「客観的視点」…教師の立場から、覚えてほしいこと、理解してほしいことなどをまとめ、教材・マニュアル化している。それらは YouTube 上の所定のチャンネルにストックしており、必要に応じて視聴することができる。より困難な状況になった際に、行動を確かめる用途で視聴する

ように設定した。動画マニュアルは検索性を上げるため、URLをQRコード化し、カードにして携帯できるようにした。

(ウ) 対象児の事後の変化

① について

まず、商店での買い物の経験がほぼ皆無だったため、非常に不安感を持っていた。そこで、商店の許可を得て、店内の商品棚の撮影を行った。帰校後、店内の配置や商品の陳列などについて確認することができた。特に買い物の必要性が高い（緊急時の食事とするための惣菜やパンなどの食料）については、自分なりの視点で写真と動画を使い分けて撮影し、アルバムアプリ「MyPhoto」で整理・管理するようにした。買い物時には、自分で動画や写真を選択して、棚の配置などを確認することで、自信を持って買い物に取り組むことができるようになった。

買い物時には、「菓子」「パン」などの棚の配置については動画や写真を見ることですぐに理解したが、実際の場面では、目線の高さの棚だけを見ていた。これは、理解の特性から、物事を平面的にとらえ、目の前の物に視線が行きがちで、広く周囲を見渡すことが難しいためだと考えられる。写真や動画を用いても、棚の全体像を撮影したり、立体的に棚の上下を見渡したりすることは難しかった。そこで、「PhotoSynth」で、奥行き感のある写真を教師と撮影し、操作をすることで、iPadの画面上に疑似的に立体の棚を表示させることができた。これを繰り返すと、上下を含めて、棚に並んでいるものを立体的に見ることができるようになってきた。



「MyPhoto」を使った動画管理

実際の買い物の場面では、さらにそれに「アレルギーチェッカー」でのチェックを加えた。そこまですべて手順化することで、実施回数は少ないものの、買うものが限定された状況では、一人で買い物ができるようになってきた。



店内の棚の配置を写真・動画でメモ



動画マニュアルの例



使用する動画メモやマニュアルを整理

② について

バスの乗車についても、これまでに経験がないため、非常に不安感を持っていた。その不安は、主には「どこで降りればよいのか」「車内でどんなことをすればよいのか」「お金が足りなくなったらどうすればよいのか」というものであった。そこで、まずはバスから見える景色を行程ごとにおさえるため、「GoogleMap」のストリートビューで、停留所からの順路に沿って確認していった。さらに、実際にバスに乗車した車内の様子を撮影した動画と見比べていった。そして、順番に「乗車時にバスカードをタッチする」→「椅子に座る」→「〇〇前のアナウンスで降車ボタンを押す」→「黄色いコンビニで降りる準備をする」→「大分市の看板が見えたら降りる」といった基準を見つけ、その画像のスクリーンショットを「iPhoto」に整理することができた。さらに、「ふきだしツクール」で、画像に注釈を入れたことで、より理解が深まったようである。これらの画像・動画メモをその都度確認することで、これまでトラブルな

く登校できている。また、同様に、バス車内の動画を見直す中で、バスカードの残高が表示されることに気づくことができた。「残高が少なくなったらチャージをすればよい」こと、「車



ストリートビューや動画マニュアルのスクリーンショットを撮り、注釈を入れる

内では混雑するためコンビニでチャージすればよい」こと、「チャージができるコンビニは限られているので事前に決めておけばよい」ことなど、順番に考えて整理していった。整理したことは、それぞれ写真・動画メモを取ることで、安心感が増したようである。この経験によって、不安感を持ったことについては、どのようなことが困っているのかを自分で確認し、要因をひとつずつ調べていけば解決できるということを実感することができたようである。チャージについては、概念が難しく理解がしにくかったため、一連の行動（レジに行く→お金を払う→カードを置く→金額をタッチする）そのものを客観的視点でマニュアル化し、YouTubeのチャンネルにアップしている。また、URLをQRコードにして印刷し、カード化して持つようにもしている。必要性があるときにはいつでもアクセスして見返せることで、「自分でできそう」という意識が安心感につながったようで、怖がらずに1人でバスに乗って登校を続けている。

③ について

編集	TimeStamp	+
おきる	8:09	
バスにのる	12:06	
学校につく	8:08	
下校	6:26	
家にかえる	6:27	
ほんごはん	6:27	
おふる	6:27	
ぬる	6:27	

TimeStamp+のログの例



iPhoneに手書きメモをつける

「TimeStamp+」は、行動をする（した）時に画面をタッチすることで、行動をした時刻を記録していくことができるアプリで、タイムログアプリでは最も操作が簡単である。それでも、取り組みを始めた当初は、家庭で時間の記録をつけることを忘れることが多かった。数日繰り返した時、自分でiPhoneにメモのカードを貼りつけていた。それ以降、ログのつけ忘れはなくなっていた。さらに、記録した時刻を書き出して並べると、生活の時刻が一定していないことと、欠席の日の前日の就寝時刻が遅いことに気づくことができた。それからは、少しずつ生活の時刻が安定し、平日の就寝・起床時刻はほぼ毎日一定になった。よい習慣を身につけるためには、意識をしっかりと持つことが必要であり、そのためには、対象生徒にとっては視覚的な支援が非常に有効であった。

また、その日に行ったことを記録することで、日々の生活を改善するための意識付けを行おうと考えていたが、記録へのモチベーションが得られずにいた、そこで、「こびと日記」というアプリを取り入れた。これは、登録したいくつかのキーワードをランダムに表示して自動的に日記を書き出すというジョークアプリだが、当然、実際の生活の内容とはまったく異なる日記が出てくる。対象生徒はこれを非常に面白がり、「こびとさんに本当のことを教えてあげよう」と、表現は簡単ながらも、日記の中身を修正して正しくその日の出来事を書き出すようになってきた。そして、次第に「こびとさんに（不規則な生活を）知られるとはずかしい」と、生活時間の方を整えるようになってきた。はじめはモチベーションの方向が異なっていたとしても、そこで気づきがあれば、良い習慣を身につけることができ、そこから意識の方を変えていくこともできるのだと感じた。

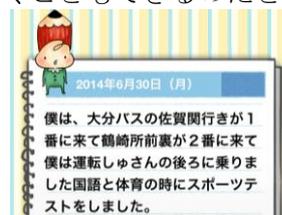
また、その日に行ったことを記録することで、日々の生活を改善するための意識付けを行おうと考えていたが、記録へのモチベーションが得られずにいた、そこで、「こびと日記」というアプリを取り入れた。これは、登録したいくつかのキーワードをランダムに表示して自動的に日記を書き出すというジョークアプリだが、当然、実際の生活の内容とはまったく異なる日記が出てくる。対象生徒はこれを非常に面白がり、「こびとさんに本当のことを教えてあげよう」と、表現は簡単ながらも、日記の中身を修正して正しくその日の出来事を書き出すようになってきた。そして、次第に「こびとさんに（不規則な生活を）知られるとはずかしい」と、生活時間の方を整えるようになってきた。はじめはモチベーションの方向が異なっていたとしても、そこで気づきがあれば、良い習慣を身につけることができ、そこから意識の方を変えていくこともできるのだと感じた。



こびとが、デタラメな日記を表示



それを見て、正しい日記に修正する



修正後の日記の例

【報告者の気づきとエビデンス】

(ア) 主観的気づき

- ・写真や動画を用いた視覚的なマニュアルは非常に有効であり、意識につながった
- ・iPhone で文字入力を繰り返すうちに、文字を書くことの抵抗が少なくなり、意欲的に学習に取り組んだ。
- ・一般的には、機器を活用した学習は「機器とのかかわり」になりがちと思われがちだが、機器の操作を通じて学んだことを友だちや後輩に伝えようとしたり、適切なかかわりを持って学び取ろうとするようになる。

(イ) 主観的気づきに関するエビデンス

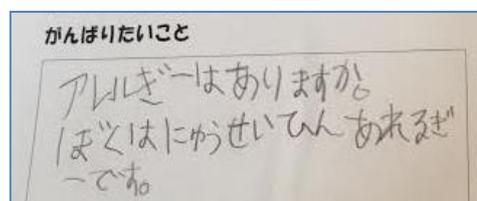
- ・促されることなく、自分で必要に応じて動画やコメントをつけたマニュアルを作るなど、生活のツールとしている。

例 家庭科4本（調理・被服） 日常生活の指導2本（着替え・清掃） 生単4本…など

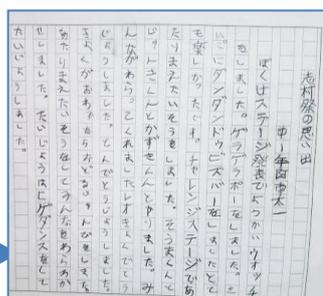
- ・自分から日記を書くようになり、作文などの書ける枚数（文字数）も格段に増した。

年度当初はひらがなとカタカナの混在した30文字程度のメモのみだったが、2学期末には200字原稿用紙2枚分の作文や、自主的に思い出を日記に書くようになっている。

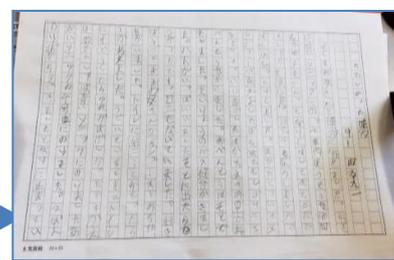
【手書き文字の変遷】



4月は促されて30文字程度をやっと書く



9月は自分で漢字を調べ100文字



12月は自主的に400文字程度の日

- ・昨年度の魔法のランプ対象の生徒の同級生が、教わったことを本児に自ら伝える場面が多く見られた。

例 友だちの作った「アプリレビュー」を真似て自分もアプリの評価を行い、それを他の友だちに知らせるようになった



【今後の見通し】

- ・買い物に関しては、今後も写真・動画化する対象の店舗を増やし、生活の範囲を広げていきたい。
- ・バスでの通学に関しては、現状でほぼ確立できている。今後は、トラブル時（バスの遅着など）の対応の仕方などについても指導をしていきたい。引っ越しのため通学方法が徒歩に変更になった。対応するための指導を継続中である。
- ・生活のリズムは、起床と就寝に関してはかなり確立されてきた。ただ、何らかの要因（天候や気になる行事等）で欠席をすることはまだあるため、気になったことは順を追って対処の方法を考えていけば解決できるという経験を多く積ませることで、自信を持って生活できるようにさせたい。
- ・本人による写真・動画のメモは非常に有効だった。反面、現状では店舗に教員が前もって撮影の許可を取っている。将来的な活用を考えると現実的ではない。周囲の人に迷惑をかけない使用方を検討し、指導したい。